

2017/2/19

## (日々雑感 21)



うち続く災厄、困難、トラブルの中に既に一年以上、あるいはそれ以前のことも含めるとかれこれ20年以上もそれらの中に身を置いていると、これを表現するのに一番適切な表現はまさに「戦争状態」というのが一番感覚的に合う言葉でした。

以前にも申し上げましたが、ぼくは、戦争は嫌いです。鉄砲も撃ちたくないし、人を傷つけたくもありません。のんきに暮らすのが大好きです。

あるいはまた、このような状態に置かれたからと言って「平和ボケ」の皆さんと「戦争状態」の自分を対比して、皆さんを非難するつもりもありませんし、同情を買うつもりもありません。

そんなことをすれば、ますます皆さんから離れて、孤立するばかりだからです。

ただ、これらの経験の数々は、役に立つものであれば、なんとか活かしたいとは思っています。

そういう前提があつての話ですが、このような戦争状態で日々を暮らしていると、ある意味当然ですが、軍事、兵法の考え方が自然と身についてきます。そうしてそれが日々、役立つことに気づいていきます。

別に鉄砲の撃ち方やナイフの使い方を身につけているわけではありません。

更に言えば、具体的にそのような文献、書物を読んでいるわけではなく、過去で言えば、テレビの戦国時代物や子供の頃親父に聞いた話、現在で言えば、ニュース記事やネットの投稿記事などを元に自分なりに組み立てていったものです。

それをまとめて、軍事、兵法の肝を一言で言うと、

「相手を知り、自分を知る」

とすることにつきます。それに則って「戦略」や「作戦」を立案、実行することです。

恣意的ではなく、手前味噌でもなく、あくまで相手と自分を客観冷静の見地に立って観察し、その相互のメカニズムを知ることです。それに従って判断し行動することです。

戦争状態において、そのような態度を強いられるのは、「自分の都合」の上になつた判断

行動が、まさに命取りになる危険を招くからです。

この「自分の都合」の上に立って偏った判断、行動をする危険を見抜いていた人たちがいました。

別に軍人ではありません。切った張ったが日常の世界である著名投資家達です。

投資の神様と呼ばれるウォーレン・バフェット氏、リーマンショックで空売りをして巨額の利益を上げたジョージ・ソロス氏、伝説の投資家ジム・ロジャース氏などです。

彼らは「自分の都合」の上に立った「読み」がいかにも損失を招き、逆にそれを排し、あるいはむしろ自分にとって好ましくない結果が出たとしても、自分の恣意を押さえて客観冷静にメカニズムをつかんだときに「富」を得ることを見抜いたのです。

ただし、賢い彼らは軍事兵法などという物騒な言い方はせずに、共通して「若い頃に哲学を学んだから」という表現を使っていますが。

無論、彼らは今現在も現役です。

他にもこの物騒な言い方である軍事兵法が役に立つ現代の分野がありました。

マーケティング分野です。

この場合の相手とは、顧客とコンペチターです。顧客戦略と他社戦略になります。

また、この場合の自分とは、自社の強み、弱み分析に当たります。

いずれも「自分の都合」を排して、客観冷静に立たないと成果は出ません。

それこそ某大手広告代理店に丸投げして、上司の受けの良いようなマーケティング戦略を立てるのとは全く異なります。

金融投資、ビジネス。

いずれもこれらは、現代の戦争なのです。だから基本的には軍事兵法の考え方がとても役に立つのではないかと考えております。

特に若い人には、武器の使い方としてなんかではなく、戦争状態においてはあくまでも客観冷静の立場に立ち、そのメカニズムをつかまないと生き残れないのだという、この軍事兵法の考え方を学ぶことをおすすめする次第です。

少なくとも、ヒステリックな「食わず嫌い」にだけはならないで欲しいと思います。

追記)

現代の物理的戦争は、逆に言うと現代の別の形の戦争、つまりビジネスと金融が作り出し、動かしているとも言えるかもしれません。極言すれば、戦争の元はお金なのだと思います。右の主義にしる、左の主義にしる。右の宗教にしる、左の宗教にしる。

だからその考え方を敷衍すれば、有史以来、なかんずく産業革命以降、この世で、戦争状態でなかったことなどひとときもなかったのではないのでしょうか。ぼくはそういう認識の方が正しいのではないかと最近思い始めました。

今まで、それに気づいていなかっただけではないかと。認識の誤りを続けていたのではなかったかと。

そうして最後に、日々苦しい思いをしたりしているのは、とりもなおさず連日連夜、毎日

が、戦争状態だからではないでしょうか？本人が、それと気づかない、認識していないだけのことで。